

鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業の評価報告(平成28年度報告)

- 被害防止計画の特徴等
ニホンジカ、ニホンザル、カワウ、イノシシ、タヌキ、ヌートリアを対象としており、侵入防止柵の設置等の取組を実施する。
また、捕獲については、平成24年度に設置した鳥獣被害対策実施隊による有害鳥獣捕獲を積極的に実施する。
- 事業効果の発現状況
銃器による捕獲に加え、農作物被害等が著しい地域においては、くくりわな、はこわなによる捕獲を併用し、イノシシやニホンジカの捕獲数が増加した。
また、狩猟免許取得を推進し、鳥獣被害対策実施隊員の確保に努めるとともに、捕獲体制及び捕獲機材の整備に取り組んだ。
- 被害防止計画の目標達成状況
ニホンジカ及びヌートリアの被害が軽減されているが、全体では未達となった。
- 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (構成市町名)	対象 地域	実施 年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見
										被害金額(万円)				被害面積(a)					
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率		
小豆島町 (小豆島町鳥獣被害 防止対策協議会)	小豆島町全域	平成26年度	ニホンザル(成獣)	有害捕獲	59頭	-	-	-	狩猟免許取得者の増加により、捕獲数は増加しており、被害軽減に結びついている。	ニホンジカ 109.2	90.0	86.0	121%	760.0	620.0	560.0	143%	猟友会、関係団体等と連携し、被害防止対策を継続実施している。 狩猟免許取得者の増加により実施隊員も増加し、有害鳥獣捕獲頭数の増加が図られている。 しかしながら、捕獲数は増加しているものの、個体数の増加が著しいと思われる、被害が抑えられていないのが現状である。 このため、平成29年度において被害防止計画を改訂し、体制の強化を図るとともに、各種被害対策を継続実施している。	捕獲、環境管理、被害防除の対策に取り組んでおり、全体的な取組としては間違っていないことから、引き続き対策に取り組んでほしい。 ニホンザルとイノシシが効果が上がっていないことから、獣種ごとに捕獲、環境管理、被害防除のバランスを検討する必要がある。
			ニホンザル(幼獣)		28頭					ニホンザル 85.6	73.0	100.1	0%	553.0	470.0	559.0	-7%		
			イノシシ(成獣)		116頭					カワウ 22.0	20.0	22.0	0%	-	-	-	-		
			イノシシ(幼獣)		118頭					イノシシ 55.4	50.0	69.3	0%	237.0	210.0	383.0	-541%		
					321頭					294.1	250.0	296.7	0.0%	1,771.0	1,430.0	1,697.0	22%		

5 第三者の意見

コメント 捕獲、環境管理、被害防除の対策に取り組んでおり、全体的な取組としては間違っていないことから、引き続き対策に取り組んでほしい。
--